



Title	第13回臨床哲学フォーラム 「パチンコ・パチプロの哲学」の特集にあたって
Author(s)	小西, 真理子
Citation	臨床哲学ニューズレター. 2025, 7, p. 121-122
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100168
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集3 第13回臨床哲学フォーラム（シリーズ：規範の外の生と知恵）
テーマ「パチンコ・パチプロの哲学」

第13回臨床哲学フォーラム 「パチンコ・パチプロの哲学」の特集にあたって

小西真理子

日時：2024年6月22日（土）14:00～17:30
場所：大阪大学豊中キャンパス全額教育推進機構B棟2階・共218
主催：大阪大学倫理学・臨床哲学研究室
共催：科研費JP23K00009

【企画案内】

パチンコで生計を立てるパチプロたち。パチプロという生き方をめぐる知恵と多様性。パチンコに勝つためのさまざまな技術と戦略。その極みには何が見えるのか。本フォーラムではパチプロの方々や研究者をお招きしてパチンコ・パチプロの哲学について議論を交わします。

【プログラム】

〔パートⅠ：研究編〕

趣旨説明・登壇者紹介：小西真理子

発表1：パチプロの倫理：小西真理子（大阪大学）

発表2：パチプロ・バイク修次郎の「パチプロ嫌い」に関する考察

松崎かさね（福井県立大学）

発表3：人は何故オカルト打法に走るのか：ヒュームとウィトゲンシュタインを手がかりに：溝越大秦（大阪大学）

質疑応答

〔パートⅡ：パチプロ編〕

パチプロ対談

登壇者：丈幻、マコト、ガリバー、大川冬馬（司会：小西）

質疑応答

全体討論

2024年6月22日（土）に第13回臨床哲学フォーラム「パチンコ・パチプロの哲学」を開催しました。2017年5月7日、私はNPO法人ワンダーポート（我が国初のギャンブル依存支援施設）が主催する依存問題基礎講座に講師として招聘していただき、そこにいらっしゃったパチンコ研究家であり、過去にパチプロとしての収入で自身が抱え

た借金を返済されたという丈幻さんにお会いしました。丈幻さんにはその後もパチプロ時代のお話を聞かせていただいたり、パチプロ忘年会に呼んでいただいたりしており、(このフォーラムにも登壇くださった)パチプロ研究をしている松崎かさねさんともつながりいただきました。丈幻さんは多くの人とのつながりを作ってくださる方で、このフォーラムが実現したことの根幹にある方だと思っています。

さらにこのフォーラムは、大阪大学大学院生の溝越大秦さんが発案してくださったものです。私は長年パチプロの方々への興味を継続的にもってきましたが、そのお話をしたときに、溝越さんご自身もパチンコや依存症などへの関心をお持ちだということをお教えくださり、そのような経緯で「パチンコ・パチプロの哲学」を企画してみたらおもしろいのではないかという話になりました。私はパチプロのみなさんがお話してくださる世界が大好きですので、二つ返事で企画を実現するために動きはじめました。

こうして、本フォーラムの研究者発表は、私、松崎かさねさん、溝越大秦さんが登壇することになりました。パチプロ対談には丈幻さんをはじめ、丈幻さんが毎年開催されているパチプロ忘年会で知り合ったマコトさん、ガリバーさん、大川冬馬さんにご登壇いただきました。マコトさんは大阪大学出身のパチプロで、パチプロ業界の伝説ともなっている方です。ガリバーさんは元プロゴルファーという経歴をお持ちのパチプロで、パチプロ期と別の仕事をしている時期が交互にありながら生活をされている方です。大川さんはパチンコ情報誌『パチンコ必勝ガイド』の元ライターの方で、ライターとパチプロを兼業されていた方です。対談にはこの他にも、松崎さんの研究発表のタイトルにもなっているバイク修次郎さんに飛び入り参加いただきました。パチプロのみなさんの対談はとてもおもしろく、明らかに時間が足りませんでした。さらにいえば、普段のみなさんの会話は、もっとはちゃめちゃで、もっと尖っています。その一部を記録できることができて、嬉しく思います。

パチプロ対談の内容は業界事情に精通していないと理解が難しい部分もありました。対談原稿を公開可能なレベルに精査し、業界外の人びとにも分かるように補足説明を加えるにあたって、丈幻さんには多大なご尽力をいただきました。また、会場には、私の研究のインタビューに協力くださっているパチプロの方々もお越しいただいていました。インタビュー協力くださった方々は、何度も私の研究室に足を運んで下さり、とても分かりやすくパチプロの解説をして下さったり、ご自身の経験について詳細に語って下さったりしました。このイベントをSNSで知ったパチプロの方も会場にいらしゃって、なかにはあたたかい感想をお寄せくださった方もいました。みなさまにこの場をかりて、お礼申し上げます。

私個人としては、このイベントをきっかけにギャンブル依存症およびパチプロ研究を本格的に始動させていきたいと考えています。たまっている仕事が多く、日々の仕事のままならないといった状態にありますが、それでもやはり私は依存症問題への関心を持ち続けているし、パチプロのみなさんの生き方や語られる内容は本当に興味深いと思っていますということを改めて実感できました。まずは、この特集をお届けすることで、パチプロのみなさんの生き様や生きる知恵を感じ取っていただけますと幸いです。

(こにし・まりこ)